

# ハイサイ沖縄

11

Nov. | 2022  
沖縄開教本部通信  
vol.102

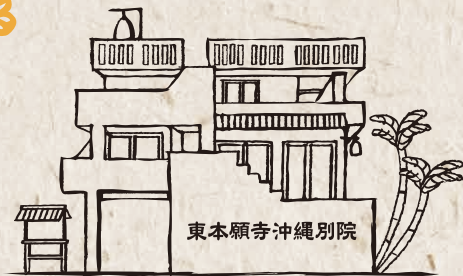
※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと



目次

## 「沖縄と日の丸」—知花昌一氏インタビュー②

- 沖縄はいま! 「沖縄県知事選挙」
- お盆に活気が戻ってきた
- コラム 「ご挨拶」長谷 暢



## 「沖縄と日の丸」—知花昌一氏インタビュー② 「本土復帰と日の丸」

—50年前、本土復帰が行われる時期の日の丸に対する思いを聞かせてください。

1969年、佐藤栄作首相がアメリカに行つて、1971年5月15日に復帰することが決まった。そのときはうれしかったよ。でもだんだんとその復帰の内容がわかってくる。軍事力支配というのは基地があるからおこつてくる。僕は基地撤去が第一の願いだつたが、佐藤首相とニクソン大統領が決めた内容は基地を残すということだつた。だからこんな復帰じゃだめだということになつてみんな復帰反対の声が出てくるんですよ。

幼少期から体験してきたアメリカの圧政に対する怒りや悔しさのなかで夢見た「日の丸復帰」。核抜き本土並みと願われた復帰は、ふたを開けてみれば軍事基地が残つたままの受け入れがたいものだつた。

そこから皆、日の丸を振るのをやめ、「反戦復帰」へと変わつていった。僕らが日の丸に込めた思いは「日本」そのものだつた。憲法九条があり、

基本的人権が守られる素晴らしい国。

そこに行きたいと思つた復帰運動。それがかなわないと知つたから、みんな「日の丸」を置いたんだ。日本に恋をしていたんですよ。それがすっかり裏切られたもんだから、反発として怒りが出てくるんです。だから嫌いになつて燃やすところまで行くんですよ。それは、アメリカの軍事力支配というものがどんなだつたかを知らないかわからないと思う。

—知花さん自身も軍事圧政の影響を受けましたか。

うちの親父は基地で働いていたけどクビになつた。たまたま瀬長亀次郎の演説会場に出くわし、そこにアメリカのスパイがいて密告を受けた。親父はびつくりして「自分は党员でない」旨の嘆願書を書き、署名を貰いに走り回つた。しかし結局クビになり、苦勞して育ててもらつた。その頃僕たちは成長期だつたし、お金もいるのに。そうゆう姿も見てきている。

当時、文部省による日の丸掲揚の



若い頃自分で買った日の丸

全国調査があり、沖縄は掲揚率6パーセント。全国で最低だつた。それから文部省による日の丸掲揚の強制が始まつた。そして各地域の学校で、生徒・教師と文部省から指導を受けた教育委員会との衝突が始まる。

文部省からの指導が入り、沖縄県知事が「日本人として恥ずかしい」という旨の発言をし、県もそれじゃあよくないと強制に入るんですよ。特に学校での入学式・卒業式での日の丸の掲揚の強制が始まつたわけ。

そんな中、「海邦国体」が開催、少年男子ソフトボールの競技会場として読谷平和の森球場が選ばれ、日の丸掲揚をめぐる村民と開催者側との間に対立が生まれていく。

(つづく)



## 【沖縄はいま！】 「沖縄県知事選挙」

沖縄県では9月11日に玉城知事の任期満了に伴う県知事選挙が行われた。

沖縄の日本「復帰」50年の節目の選挙で即日開票の結果、現職の玉城デニー知事が再選を果たした。今回、争点となった米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古の新基地建設に対し、反対する県民の意思が根強



いことがあらためて示された。玉城知事は「誰一人取り残さない、誇りある豊かな沖縄を指して前進したい。先頭にたって全身全霊で頑張っていく」「1ミリもぶれることなく県民」と思いを共有し、政府に解決を

求め、自らも発信して行動したい」と辺野古新基地建設の断念などにふれ、決意を新たに示した。反対の県民意思が示された考えを強調し新基地建設を止める手段は「世界が対応機関だ」と述べ、国際社会へのアプローチを強める姿勢を示した。若者世代を支える制度の構築を目指す考えや、新型コロナウイルスに関して経済政策や医療体制の強化に向けて予算規模の大きい補正予算の編成を検討する考えも示した。

## お盆に活気が戻ってきた

ここ三年間新型コロナウイルスの蔓延で縮小して行われた沖縄の旧盆の行事に活気が戻ってきた。旧暦の8月15日（8月12日）には各家庭でウークイ（御送り）の儀式が行われた。また、旧盆の三日間、県内各地の青年会がエイサーで街を練り歩く「道ジュネー」が三年ぶりに繰り広げられた。特にエイサーが盛んな中部の夜の街には、太鼓と三線、

力強い掛け声が響いた。

北谷町では北谷町連合会にとつて聖地とされる場所に数百人が集まり、熱気であふれるなかエイサー隊が太鼓を鳴らし、練り歩いた。地謡の三線の演奏が進むにつれ、エイサー隊は激しいバチさばきをしながら、飛び跳ねたり股を割ったり、全身を使った演舞は気迫がこもっていた。

名護市・本部町・今帰仁村では太鼓を持たずに男女が入り交じり手踊りをする道ジュネーが伝わっている。たく



さんのギヤラリーが集まる中、青年会のメンバーが旗頭の周りで輪になり三線による演奏に合わせ扇などの小道具をもつて演舞を披露した。

## 一コラム一 ご挨拶

このたび、九月一日付をもちまして、沖縄開教部長兼沖縄別院輪番を拝命いたしました。

もとより浅学菲才の身にて、その職責の重さを痛感いたしている次第です。

さて、私はこれまで沖縄開教本部、沖縄別院の職員を20年余りに渡り務めさせていただきました。その間、滋賀県出身者として、沖縄の様々な課題を身をもって知らしめられました。沖縄戦、基地問題、経済格差など、課題の多くが日本「本土」との不平等な関係性の歴史に基づくものだと思ってきました。このことをできるだけ多くの方々に知っていただきたいと思えます。その二つの起点として、田代前輪番が注力されましたが、コロナ蔓延の為、滞っている「琉球・沖縄に関する同朋懇談会」の開催を期したいところです。

一方で沖縄の素晴らしい自然に魅了され、また独自の歴史と文化にも強い関心があります。特に琉球・沖縄における真宗の歴史の掘り起こしには長年関わってきました。琉球史の中で燦然と輝く琉球門徒の姿が明らかになる一方、戦前の当派の関わりの問題点も浮かび上がっております。

これから沖縄のご門徒の方々と共に、「国豊民安兵戈無用」の経言をよりどころとして、沖縄別院・開教本部の事業推進に、微力ながら精一杯務めたいと思えます。

どうぞよろしく申し上げます。

長谷 暢